

TIBE2018
台北国際ブックフェア

日本語

台湾ブックフェア出展県産本（版元別）

●東洋企画

『okinawa soup』伊是名カエ

『上地流空手道』島袋幸信

●新星出版

『沖縄の生きものたち』沖縄生物研究会

『王都首里見て歩き ガイド&マップ』古都首里探訪会

●ボーダーインク

『おうちでうちなーごはん』はやかわゆきこ

『グスク探訪ガイド』名嘉正八郎

『泡盛の文化誌』萩尾俊章

『ぼくの＜那覇まち＞放浪記』新城和博

●南山舎

『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』松田良孝

『来夏世』大森一也

『八重山歴史読本』中田龍介

●琉球新報社

『沖縄の民話21話』遠藤庄治・安室二三雄

『徳元佳代子のやさしいやさい』徳元佳代子

●琉球プロジェクト

『復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」に沖縄が経験したこと』池間一武

●沖縄時事出版

『絵本 うずらのかあさん』ひらたえみこ・さどやませいこ

『沖縄の戦争遺跡』沖縄県平和祈念資料館

●榕樹書林

『アジアの海の古琉球』内田晶子・高瀬恭子・池谷望子

『サンゴ礁に生きる海人』秋道智彌

『芭蕉布物語』柳宗悦

『琉球王国海上交渉史研究』松浦章

●沖縄タイムス社

『琉球菓子』安次富順子

『世界の中の沖縄文化』渡邊 欣雄

『バッドデイ』黒ひょう

『鉄の暴風』沖縄タイムス社

『石垣島で台湾を歩く』国永美智子・松田良孝・野入直美

●沖縄文化社

『よくわかる琉球・沖縄史』沖縄文化社

- フォレスト
 - 『沖縄戦の全女子学徒隊』青春を語る会
 - 『しょうたがじまる』野原なをみ
- ゆい出版
 - 『沖縄・国際通り物語』大濱聡
- ニライ社
 - 『アメリカのある風景』仲程昌徳

台湾ブックフェア出展県産本（分野別リスト）

【沖縄戦】

- No. 1 『沖縄の戦争遺跡』沖縄県平和祈念資料館（沖縄時事出版）
- No. 2 『鉄の暴風』沖縄タイムス社（沖縄タイムス社）
- No. 3 『沖縄戦の全女子学徒隊』青春を語る会（フォレスト）

【歴史】

- No. 4 『グスク探訪ガイド』名嘉正八郎（ボーダーインク）
- No. 5 『八重山歴史読本』中田龍介（南山舎）
- No. 6 『アジアの海の古琉球』内田晶子・高瀬恭子・池谷望子（榕樹書林）
- No. 7 『琉球王国海上交渉史研究』松浦章（榕樹書林）
- No. 8 『よくわかる琉球・沖縄史』沖縄文化社（沖縄文化社）

【現代史】

- No. 9 『復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」に沖縄が経験したこと』池間一武（琉球プロジェクト）

【文化】

- No.10 『世界の中の沖縄文化』渡邊 欣雄（沖縄タイムス社）

【美術・工芸】

- No.11 『芭蕉布物語』柳宗悦（榕樹書林）

【民俗】

- No.12 『泡盛の文化誌』萩尾俊章（ボーダーインク）

【民話】

- No.13 『沖縄の民話 2 1 話』遠藤庄治・安室二三雄（琉球新報社）
- No.14 『絵本 うずらのかあさん』ひらたえみこ・さどやませいこ（沖縄時事出版）

【自然】

No.15 『沖縄の生きものたち』 沖縄生物研究会（新星出版）

No.16 『サンゴ礁に生きる海人』 秋道智彌（榕樹書林）

【料理】

No.17 『okinawa soup』 伊是名カエ（東洋企画）

No.18 『おうちでうちなごはん』 はやかわゆきこ（ボーダーインク）

No.19 『徳元佳代子のやさしいやさい』 徳元佳代子（琉球新報社）

No.20 『琉球菓子』 安次富順子（沖縄タイムス社）

【地域】

No.21 『王都首里見て歩き ガイド&マップ』 古都首里探訪会（新星出版）

No.22 『ぼくの＜那覇まち＞放浪記』 新城和博（ボーダーインク）

No.23 『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』 松田良孝（南山舎）

No.24 『石垣島で台湾を歩く』 国永美智子・松田良孝・野入直美（沖縄タイムス社）

No.25 『沖縄・国際通り物語』 大濱聡（ゆい出版）

【空手】

No.26 『上地流空手道』 島袋幸信（東洋企画）

【文学】

No.27 『バッドデイ』 黒ひょう（沖縄タイムス社）

No.28 『しょうたがじまる』 野原なをみ（フォレスト）

No.29 『アメリカのある風景』 仲程昌徳（ニライ社）

【写真集】

No.30 『来夏世』 大森一也（南山舎）

【沖縄戦】

No. 1 『沖縄の戦争遺跡』 沖縄県平和祈念資料館（沖縄時事出版）

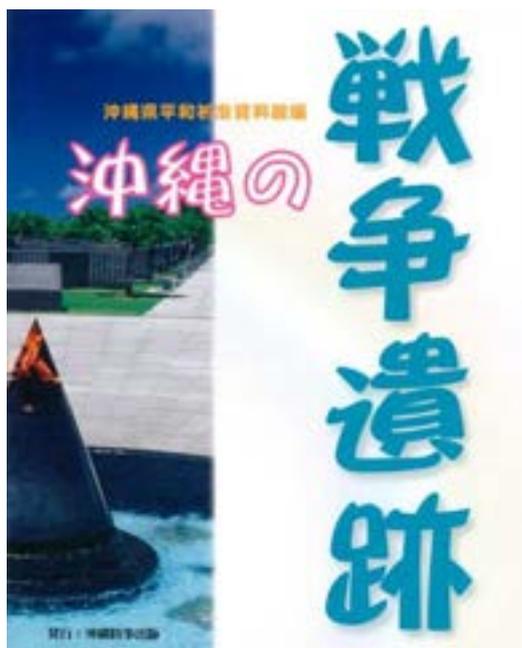
『沖縄の戦争遺跡』内容）

沖縄は去る大戦で、県民を総動員した地上戦の場となり、20万人余の尊い生命やかけがえのない文化遺産を失った。

中国や韓国・台湾など、東アジアの国々から多くの観光客が訪れる沖縄 県平和祈念資料館。そこには沖縄戦の実態を展示し、戦争の悲惨さや、二度と起こしてはいけない人間の愚かな行為を今に伝えている。本書では、沖縄戦を特徴づける戦争遺跡としてガマや壕を中心に提起し、そこから出土した遺物や、沖縄戦当時の写真を多数掲載。また、市町村別の戦跡マップや現地までの案内図、イラストマップなど、オールカラーで掲載され、小学生でも読み解きやすい。沖縄県の平和学習にかかせない一冊となっている。

『沖縄の戦争遺跡』目次）

- 1, 日本軍の配備と沖縄戦
- 2, 戦争遺跡にみる沖縄戦
- 3, 中部の戦争遺跡
- 4, 南部の戦争遺跡
- 5, 北部の戦争遺跡
- 6, 離島の戦争遺跡
- 7, 戦争遺跡の保存・活用
- 8, 展示資料目録・参考文献



『沖縄の戦争遺跡』書誌情報）

編集：沖縄県平和祈念資料館

発行：合資会社 沖縄時事出版

発行日：2017年12月1日 2016年第5刷発行

定価：本体1,143円＋税

ISBN978-4-903042-14-5

No.2 『鉄の暴風』 沖縄タイムス社（沖縄タイムス社）

『鉄の暴風』 内容)

「戦争の醜さの極致」だと言われた沖縄戦。その沖縄戦の実相を記録した、沖縄戦記の原点といわれる書。軍の作戦上の動きではなく、住民の動きと被害に焦点を当て、住民の視点から執筆されたことは当時としては画期的なこととされた。初版は1950年、沖縄県産本最大のロングセラーとして今なお読み継がれ、「鉄の暴風」という言葉は沖縄戦を語る際の枕詞にもなっており、戦後沖縄人の意識構造にも大きな影響を与えた。20年・30年・50年後の「あとがき」も収録。

『鉄の暴風』 目次)

嵐の前夜
悲劇の離島
中・南部戦線
姫百合之塔
死の彷徨
北山の悲風
住民の手記
戦闘経過概要
沖縄戦日誌
沖縄戦線要図 ほか



『鉄の暴風』 書誌情報)

編 著：沖縄タイムス社
発 行：沖縄タイムス社
発行日：1950年8月15日初版発行
定 価：1,458円＋税
ISBN4-87127-001-7

.....

No.3 『沖縄戦の全女子学徒隊』 青春を語る会（フォレスト）

『沖縄戦の全女子学徒隊』内容)

沖縄戦の悲劇を象徴するものとして語られることの多い女子学徒隊。しかし、彼女たちは、どこにでもいる、女学生たちだったことを忘れてはいけない。

本書は女生徒たちが青春を謳歌する姿から描かれる。しかし、次第に戦争へと巻き込まれていく沖縄。彼女たちも例外ではなかった。16歳から17歳の彼女たちは、どのようにして命を落としていったのか、そして生き延びることができたのか。本書は、体験した者だけにしか語ることのできない悲劇を綴っている。生き延びても級友たちを救えなかった思いに囚われながら戦後を生きてきた彼女たちの「二度と戦争をしてはいけない」という想いを痛切に感じることものできる書である。

『沖縄戦の全女子学徒隊 一次世代に遺すもの それは平和ー』目次

はじめに

戦争記録の出版を祝して（大田昌秀）

1. 女子学徒たちの青春群像

写真に見るありし日の学園生活

各女学校の概略

証言

2. 女子学徒隊の沖縄戦

沖縄戦と女子学徒隊（普天間朝佳）

証言

3. 女子学徒たちの戦後

女子学徒たちの戦後（普天間朝佳）

それぞれの戦後

各校慰霊塔建立までの足跡

ひめゆり平和祈念資料館の設立とそのあゆみ

4. 次世代へ

「青春の語る会」沖縄戦を語り継ぐ元女子学徒隊の会（中山きく）

各世代へ

資料編



『沖縄戦の全女子学徒隊 一次世代に遺すもの それは平和ー』書誌情報)

編著者：青春を語る会（代表 中山きく）

発行日：2006年6月23日

発行：有限会社フォレスト

定価：2,200円＋税

ISBN4-9903112-0-5

.....

【歴史】

No. 4 『グスク探訪ガイド 沖縄・奄美の歴史文化遺産』名嘉正八郎（ボーダーインク）

『グスク探訪ガイド 沖縄・奄美の歴史文化遺産』内容）

2000年世界遺産に登録されたグスク遺産9つと奄美から沖縄の54箇所のグスク（城）を紹介。

グスクとは奄美・沖縄地区に比較的高所にある城跡で、一般に「城」という漢字があてられ、支配者の居城と考えられている。本書では奄美から沖縄、宮古八重山までの主要なグスクを写真や、地図、図を使って概要や歴史、伝説、遺稿調査の内容などを紹介。

これらの遺跡に東南アジア、中国、そして日本との諸文化間の交流の歴史、そして自然や信仰の姿などグスク全般についてわかる決定版。

『グスク探訪ガイド 沖縄・奄美の歴史文化遺産』目次）

「グスク」探訪のすすめ／グスクの歴史と現在／グスク私論

●世界遺産 今帰仁城跡、座喜味城跡、勝連城跡、中城城跡、園比屋武御嶽石門、首里城跡、玉陵、識名園、斎場御嶽

●奄美諸島 用安湊城、赤木名グスク、浦上グスク、七城、神之嶺城跡、玉城遺跡、ミョウガンの森、面縄按司城跡、世之主城館跡、与論城、カムイヤキ古窯跡

●沖縄島・北部 国頭グスク、羽地グスク、名護グスク、山田グスク

●沖縄島・中部 伊波城跡、安慶名城跡、伊計グスク、泊グスク、比嘉グスク、西グスク、知花グスク、越来グスク、伊祖城跡、浦添城跡

●沖縄島・南部 三重グスク、御物グスク、屋良座森グスク、大里グスク、佐敷グスク、知念上跡、垣花城跡、玉城城跡、糸数城跡、南山グスク、具志川城跡

●沖縄島周辺離島 伊是名城跡、田名グスク、伊江村の城山、伊敷索城跡、具志川城跡、宇江城城跡

●宮古・八重山諸島 西銘城跡、高腰城跡、フルスト原遺跡、イールウガン遺跡、下田原グスク
あとがき

『グスク探訪ガイド 沖縄・奄美の歴史文化遺産』

書誌情報）

著者：名嘉正八郎

発行：ボーダーインク

発行日：2002年5月20日発行

定価：1,800円＋税

ISBN978-4-89982



No. 5 『八重山歴史読本』中田龍介（南山舎）

『八重山歴史読本』内容）

日本の最西南端「八重山」の歴史に興味を持つ方に最適な入門書。先史時代、英雄時代、近世、近現代、戦争、戦後に時代を区分し、総勢 13 名の各分野選りすぐりの筆者が 43 編のテーマで八重山の歴史を読み解く。文化の起源、オヤケアカハチの乱、人頭税、戦争マラリア、文芸復興など、様々なテーマ、角度から歴史が語られ、読者は自分が興味のある時代・テーマから読み進めることができる。時代ごとに解説のページを設けているほか、巻末に「注釈」、「八重山歴史略年表」、「人名・地名索引」付。

『八重山歴史読本』目次）

先史時代（解説） 八重山の先史時代を解くキーワード／海と文化の伝播／川平村の文化財／古来の犬・琉球犬—移動にみる人（文化）の起源—

英雄時代（解説） 今、アカハチの乱を振り返る～オヤケアカハチ没後五百年～／慶来慶田城用緒 南海に活躍した古琉球期の雄／「古琉球」を歩く—城跡・外寇・交易など—

近世（解説） 八重山の辞令書／八重山の村落と風水／八重山の医者事始め／航海への祈り 一尋の手巾—／近世八重山の流通事情／八重山のウミンチュ／時代に揺れる十六日祭／クサティムイ／与那国小唄の記憶／島から島へ—烽火通信のこと／近世の島と村—寄百姓のこと—／親廻り—島々村々の巡視—／異国船の来航—岸边を打つ世界史の潮流—／石垣島北部の村々／すい星と八重山古代人／パイパティローマ伝説の村／与那国島の伝説／星見石と人頭税石

近現代（解説） 八重山の苗字／八重山に貢献したイノーのナマコ／廃村・安良村跡に立つ／文芸同人誌『セブン』の誕生／波照間島の燐鉱採掘～景気を浮揚させ住民生活を潤す～

戦争（解説） 西表島における日本軍の戦争犯罪／軍神と詩人／神水／戦争遺跡の保存を！／八重山・戦争マラリア補償問題／ゲルニカと戦時下八重山の戦争報道／八重山の戦争と皇民化教育

戦後（解説） 村山秀雄と戦後八重山の文芸復興／とうばら—ま大会創設のころ／琉米文化会館とその時代／発禁本『愛唱歌集』／古代文化の原型つかむ—早大・八重山学術調査団—／文化の根源を追究する岡本太郎の見た八重山

『八重山歴史読本』書誌情報）

編者：中田龍介

発行：南山舎

発行日：2004年6月1日 初版第1刷発行／

2016年2月1日 第2版第1刷発行

定価：1,900円＋税

ISBN978-4-901427-11-1



No.6 『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』 内田晶子・高瀬恭子・池谷望子（榕樹書林）

『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』内容)

和田久徳門下の三女史が『琉球歴代宝案』『明実録』『朝鮮王朝実録』の中から琉球史料を抽出し、これらを通して、古琉球＝大航海時代の琉球王国と東南アジア・朝鮮・中国との交易の実相を探る。

一般の人にとっては、なかなかとつきにくい漢文史料を易しく読み解いて、アジアの海を駆け巡った古琉球の時代を再現する本書は、歴史を自らの魂の拠り所とする者にとっては大きな快樂となろう。2009年度沖縄タイムス出版文化賞受賞。

『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』目次)

第一部 琉球と東南アジア・・・内田 晶子

- 一、『歴代宝案』にみられる琉球船の渡航先
- 二、琉球船が東南アジアへ出た理由を考える
- 三、明の「開洋」の謎

第二部 琉球と朝鮮

- 一、朝鮮への琉球国王使
- 二、捏造された「久辺国」
- 三、「志魯・布里の乱」とは
- 四、首里城は炎上したか
- 五、第一尚氏最後の王「中和」
- 六、漂流民万年と丁録
- 七、十五世紀の先島
- 八、蔡環という男

第三部 琉球と明

- 一、大琉球と小琉球
- 二、南京・北京と行在－明初の貢使はどこへ入朝したか
- 三、明初、琉球はどこから入貢したか－進貢船は寧波・瑞安・福建へ来航
- 四、琉球へ来航する明の密貿易船－黄蕭養の乱と明の海防対策
- 五、福建市船司－設置から廃止まで
- 六、貢使たちの明での日々－朝貢の手続きと儀礼の実際
- 七、誰も知らない会同館の歴史
- 八、琉球の勘合 明・日本の勘合
- 九、三十六姓賜与と給引通商の請願－琉球、日明通商復活交渉を仲介する
- 十、殺された使臣と救われた使臣－朝鮮へ漂流した二隻の進貢船
- 十一、崇禎の王銀詐取事件と白糸貿易禁止令



『アジアの海の古琉球 東南アジア・中国・朝鮮』書誌情報)

著 者：内田晶子・高瀬恭子・池谷望子著

発 行：榕樹書林

発行日：2009年7月30日

定 価：4,800円+税

SBN978-4-89805-133-7

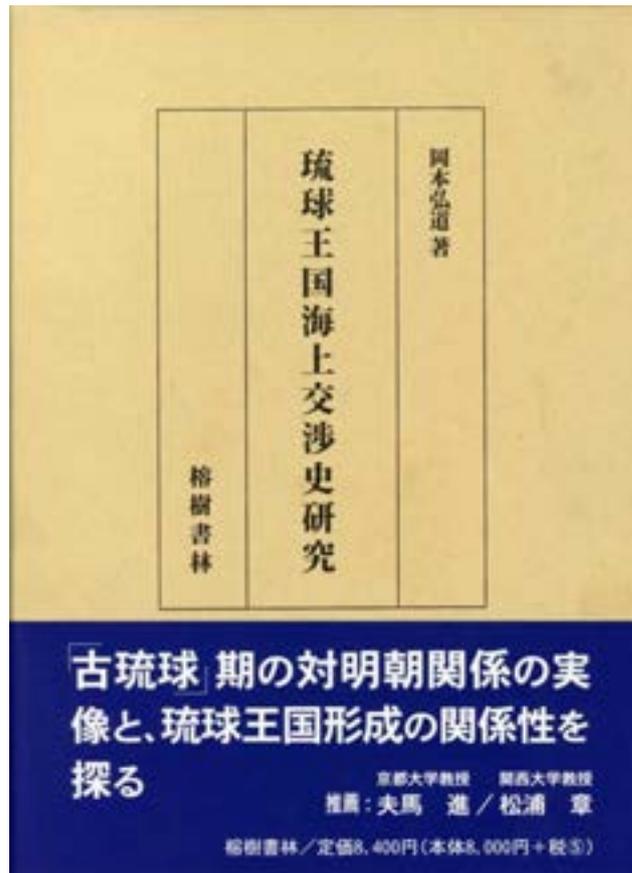
.....

No. 7 『琉球王国海上交渉史研究』 岡本弘道（榕樹書林）

『琉球王国海上交渉史研究』 内容）

古琉球期の琉球が明との交易や交流を通して海上交易拠点国家として形成されていく上で、明の対外政策、勘合貿易、琉球官生の実態等から、それらがどの様に影響しあっていたのかを綿密に分析し、琉球史研究の新しい時代を開いた基本図書。

本書では明代初期における琉球の位置と交流の実像、官生のあり方、勘合貿易について、あるいは海船の諸相、マラッカ王国との比較等を通して琉球王国の国家形成の実像を探ろうとするものである。2010年度伊波普猷賞受賞。



『琉球王国海上交渉史研究』 目次）

第一章 明朝における朝貢国琉球の位置づけとその変化

- 一 明朝・琉球間関係の統計的推移
- 二 明朝の琉球優遇政策の展開
- 三 琉球優遇政策の転換とその要因

第二章 明代初期における琉球の官生派遣について

- 一 『南雍志』による琉球官生像の再検討
- 二 第一期琉球官生派遣の意義

附録『南雍志』中の琉球官生関連記事

第三章 琉球王国の半印勘合と明朝の朝貢勘合との関係について

一 問題設定

二 『歴代宝案』に見る「半印勘合」

三 明朝の往来使節管理制度としての朝貢勘合と琉球

第四章 古琉球期の琉球王国における「海船」をめぐる諸相

一 「海船」の調達と管理－「字号船」から「土船」へ

二 「海船」の運用の実態－琉球の半印勘合を手掛かりに－

三 「海船」組織と「ヒキ」＝「陸の海船」

第五章 「新興通商拠点国家」琉球の形成と展開について

一 朝貢国としての成立と永楽帝の世界構想

二 明朝の関与後退と「新興通商拠点国家」の展開

第六章 明朝朝貢体制から見た琉球の対明朝貢の実態

一 琉球の朝貢ルートの概要

二 琉球から見る、行為としての「朝貢」

第七章 古琉球期における琉球王国の交易品

一 交易形態と交易品の概要

二 琉球王国の交易品と琉球弧

『琉球王国海上交渉史研究』書誌情報)

著 者：岡本弘道

発 行：榕樹書林

発行日：2010年11月19日（第二刷）

定 価：8,000円＋税

ISBN978-4-89805-142-9

.....

No.8 『よくわかる琉球・沖縄史』沖縄文化社（沖縄文化社）

『よくわかる 琉球・沖縄史』内容)

沖縄の人間は沖縄が好き。中でも沖縄の歴史に興味を持つ人は多い。しかし、先史時代から現在までを俯瞰して沖縄の歴史を調べようとしても、専門的になりすぎ、一定のレベル以上の知識を持つ人でなければ、理解することが難しい書が多い。

本書は、「沖縄の先史時代」から始まり、「復帰後の沖縄」まで、まさしく沖縄の歴史を俯瞰した内容となっている。それも、初めて沖縄の歴史に触れるような初心者にも理解できるよう、わかりやすい文章と、豊富に掲載されている写真やイラストなどで展開されている。本書で沖縄の歴史を理解し、それから専門的な歴史書へ読書を深めていくのがおススメ。

『よくわかる 琉球・沖縄史』目次

第1章 沖縄の先史時代

1. 沖縄人はどこから来たのか
2. 貝塚からわかること

第2章 琉球王国の誕生と発展

1. 按司の出現と成長
2. 琉球王国の誕生

第3章 薩摩支配下の琉球王国

1. 薩摩の琉球侵略
2. 新しい政治改革
3. 沖縄文化の興隆
4. 琉球王国の動揺

第4章 琉球王国から沖縄県へ

1. 外国船の来航と琉球
2. 明治維新と琉球処分
3. 沖縄県政のはじまり
4. 民権運動と土地整理事業
5. ソテツ地獄の沖縄
6. 太平洋戦争と沖縄

第5章 アメリカによる沖縄統治

1. 敗戦直後の沖縄
2. 基地の中の沖縄
3. 復帰運動と返還前夜

第6章 復帰後の沖縄

1. 新生沖縄県の発足
2. 地方自治を求めて

巻末資料

『よくわかる 琉球・沖縄史』書誌情報

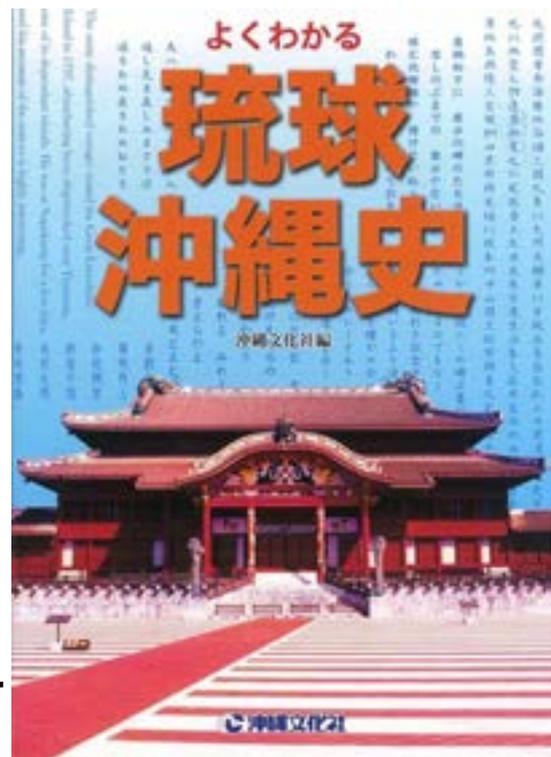
編 者：沖縄文化社

発 行：有限会社沖縄文化社

発行日：2016年4月21日

定 価：1,200円＋税

ISBN978-4-902412-27-7



【現代史】

No.9 『復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」に沖縄が経験したこと』

池間一武（琉球プロジェクト）

『復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」に沖縄が経験したこと』内容

「1945年4月1日、沖縄本島に上陸した米軍は、5日ミニッツ布告を公布した。以後、沖縄は米軍の占領の下に置かれ、日本と事実上切り離された。沖縄の戦後は米軍の統治政策に従ってスタートした」（本書52ページより引用）。沖縄の人々はその27年間を「アメリカ世」と呼んでいる。そして1972年5月15日、沖縄は日本へ復帰した。この日をもって、27年にわたる米軍統治の終焉を迎えたのである。それから45年の歳月が流れ、今や復帰以前を知る世代が次第に少なくなっている。

本書は、「アメリカ世」を知らない世代に向けて編集されており、「アメリカ世」とはどんな時代であったのかを、当時の写真と詳細な解説文で構成されている。

沖縄にとって「アメリカ世」とは何だったのか。今でも同じような事件・事故が頻発する現在、米軍と沖縄、日本政府の関係を問いかける内容ともなっている。

『復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」に沖縄が経験したこと』目次

まえがき

I. 日本復帰前

通貨切り替え／琉球切手／海外移民／琉米親善／遺骨収集／Aサイン／布令弁護士／パスポート（渡航証明書）

II. 米軍統治

強制土地接收／屈辱の日／琉大事件／由美子ちゃん殺害事件／人民党事件／高等弁務官／宮森小学校米軍機墜落事故／アイゼンハワー米大統領の沖縄訪問／コザ反米騒動／

III. 日本復帰前後

毒ガス移送／沖縄返還／憲法手帳／若夏国体／ひめゆりの塔火炎瓶事件／海洋博／交通方法の変更／県道104号線越え実弾砲撃訓練／不発弾処理・事故／米兵犯罪と地位協定／

戦後年表

『復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」
に沖縄が経験したこと』書誌情報

著者：池間一武

発行：琉球プロジェクト

発行日：2016年7月15日

定価：1300円＋税

ISBN978-4-908598-03-6



【文化】

No.10 『世界の中の沖縄文化』 渡邊 欣雄（沖縄タイムス社）

『世界の中の沖縄文化』内容）

「世界から見える沖縄・沖縄から見える世界」をテーマに、門中、位牌、洗骨、風水、祭り、綱引き、獅子舞、命名などの題材を取り上げ（全 40 回）、沖縄独特と思われるそれらが世界（主に東アジア）とどのような類似点、相違点があるかを平易な文章で解説している。写真を多く配した沖縄民俗入門書の趣きながら、沖縄研究の蓄積をふんだんに詰め込んでいるので、その内容は深い。刊行は 1993 年ながら内容は古びず、今も増刷を続けている。

『世界の中の沖縄文化』目次）

外に開かれた沖縄文化

オナリ神 姉妹の霊威

モーアシビとニービチ 結婚とは何か

ハヅキ 多義的記号としての入墨

アカマタ・パーントゥ・アンガマ 異相の来訪者

老人の文化 沖縄の長寿の秘訣

沖縄文化の世界性 ほか

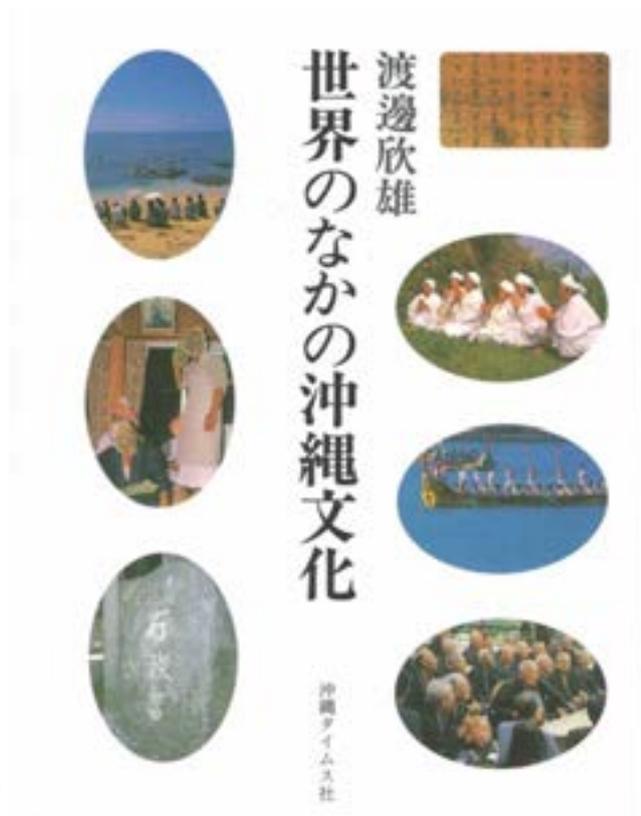
『世界の中の沖縄文化』書誌情報）

著 者：渡邊欣雄

発 行：沖縄タイムス社

発行日：1993 年 5 月 31 日初版発行

ISBN978-4-87127-009-0



【美術・工芸】

No.11 『芭蕉布物語』 柳宗悦（榕樹書林）

『芭蕉布物語』内容)

昭和 17 年に私家版限定本として刊行された名著に、詳細な解説を附した待望の新版。「今どきこんな美しい布はめったにないのです。」に始まる柳宗悦の芭蕉布讃歌は、戦後の芭蕉布復興のバイブルとなり、人間国宝・平良敏子さんを生み出し、琉球織物の最高の美として広く世に知らしめる元典となった。

解題は、民藝運動の美意識を高く評価しつつ、その内部に分け入り、その美の本質は何なのかを鋭く追求している。(松井健氏は東京大学東洋文化研究所人類学専攻、現在は名誉教授。)

『芭蕉布物語』目次)

前書 (まえがき) / 芭蕉布 (ばしょうふ) / 芭蕉糸 (ばしょういと) / 糸績 (いとうみ) / 糸括 (いとくくり) / 糸染 (いとぞめ) / 柶巻 (かせまき) / 緋柄 (かすりがら) / 機織 (はたおり) / 緋味 (かすりあじ) / 芭蕉着 (ばしょうぎ) / 夏衣 (なつぎぬ) / 織手 (おりて) / 後書 (あとがき)

『芭蕉布物語』解題目次)

- 一、『芭蕉布物語』の位置
- 二、『芭蕉布物語』が語ること
- 三、近代批判としての『芭蕉布物語』 / 四、『芭蕉布物語』爾後

『芭蕉布物語』書誌情報)

著 者：柳 宗悦 解題：松井 健

発 行：榕樹書林

発行日：2016年9月20日

定 価：1,500円＋税

ISBN978-4-89805-189-4



【民俗】

No.12 『泡盛の文化誌 沖縄の酒をめぐる歴史と民俗』萩尾俊章（ボーダーインク）

『泡盛の文化誌 沖縄の酒をめぐる歴史と民俗』内容)

600年以上沖縄で愛されてきた沖縄の酒・「泡盛」は沖縄が世界に誇るスピリッツ（蒸留酒）である。その泡盛について豊富な文献資料や、東南アジア各国でのフィールドワークの成果をまとめた沖縄の酒文化研究の集大成となる一冊。泡盛のルーツはひとつではなく、シャム（現タイ）や中国・福建地域など複数のルートから伝わった技法と、泡盛だけに使われる麴「黒麹菌」が結びついて出来上がったとする。写真や図版多用。

『泡盛の文化誌 沖縄の酒をめぐる歴史と民俗』目次)

はじめに

第一章 世界の酒文化

1、酒のはじまり／2、酒の酒類／3、日本の酒の歴史／4、泡盛の源流を求めて

第二章 泡盛の特徴

1、焼酎と泡盛／2、黒麹菌と泡盛／3、「あわもり」の語源／4、古酒のしつぎ
5、蒸留の技術と原料米／6、伝統的な酒造民俗

第三章 王国時代の泡盛

1、記録に見る泡盛／2、王府と泡盛／3 江戸の泡盛事情／4、王府の酒造政策
5 琉球王国の崩壊

第四章 近代の泡盛

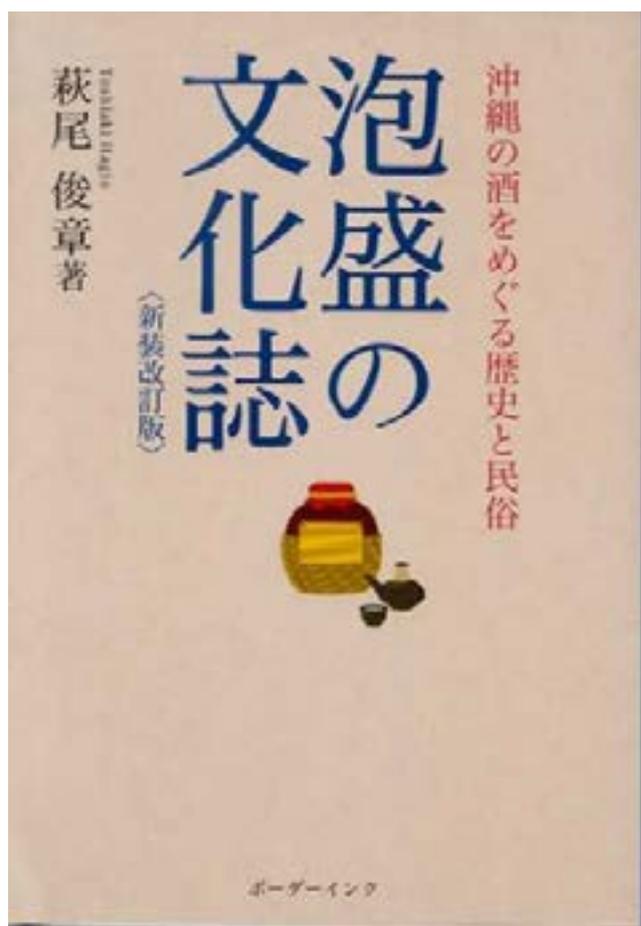
1、酒造りの自由化／2、各地の酒造りと流通／3、泡盛産業の発達と酒税制度
4、戦時統制化の泡盛

第五章 現代の泡盛

1、戦後の復興／2、沖縄民政府の取り組み／3、泡盛業界の近代化
4、復帰後の泡盛／5、泡盛の現代

第六章 沖縄の酒文化

1 神・祭り・酒 2、説話の中の酒 3、酒と女性 4、酒宴と酒の作法 5 人生儀礼と酒
6、泡盛と花酒 7 酒と薬 8 泡盛と酒器 9 泡盛と琉球料理



『泡盛の文化誌 沖縄の酒をめぐる歴史と民俗』書誌情報)

著 者：萩尾俊章

発 行：ボーダーインク

発行日：2004年12月10日初版発行

2016年1月20日増補改訂版発行

定 価：1800円＋税

ISBN978-4-89982-292-9

.....

【民話】

No.13 『沖縄の民話 21話』 遠藤庄治・安室二三雄（琉球新報社）

『あなたが選んだ 21世紀に残したい 沖縄の民話 21話』内容

沖縄は「民話の宝庫」とも称される地域。本書の文を担当された遠藤庄司氏（故人）は、“沖縄各地から聴取した七万話から、二百話を選んで琉球新報社に提示し”と「はじめに」の中に記している。まさしく民話の宝庫と呼ぶにふさわしい質と量だといえよう。本書に掲載されている内容も、動物昔話・本格昔話・伝説など多岐にわたる。

本書は、遠藤氏の「はじめに」にあるように、7万話から二百話を抽出し、それを更に沖縄県民の公募によって21話が選定された。沖縄県民であれば、誰でも知っている民話の数々。幼児から小学生、一般の方にも読めるように編集されており、21世紀だけでなく、未来永劫に残しておきたい県民の文化遺産といえる。

『あなたが選んだ 21世紀に残したい 沖縄の民話 21話』目次

はじめに

カシャとコラマタ／ハエとスズメ／雀の親孝行／鷲とミーバイ／十二支の由来
カジマヤーの始まり／八つで死ぬ運／塩吹き臼／姉と弟／子ぬ方星の由来
ハブの恩返し／クスターの由来／星砂の由来／白銀堂由来／百合若大臣
キジムナーの仕返し／ハガマ被り娘／普天間権現の由来／天女のむすこ
わらしべ長者

『あなたが選んだ 21世紀に残したい 沖縄の民話 21話』書誌情報

著 者：文：遠藤庄治 絵：安室二三雄

発 行：琉球新報社

発行日：2000年7月7日

定 価：1.800円＋税

ISBN978-4-89742-082-0



No.14 『絵本 うずらのかあさん』ひらたえみこ・さどやませいこ（沖縄時事出版）

『絵本 うずらのかあさん』内容）

多良間島は、那覇市から約 344 km離れた小さな島で、石垣島と宮古島のほぼ中間に位置します。その多良間島に伝わる「うっじゃが うま」（うずらの母）というあそび唄をもとに絵本にしました。あそび唄特有のリズム感を活かした文章は読み聞かせとしても好評で、聞いている子ども達もいっしょになってリズムをとってくれます。火事から子ども達を守った母親は、逃げてしまった父親に「お酒と魚がないと許さない」と怒りますが、その展開からうずら親子の微笑ましい姿を浮かび上がらせてくれます。

『うずらのかあさん』あらすじ）

うずらの住む野原が火事になります。卵を必死に守る母親と逃げ出してしまう父親。火事がおさまると、母親と子ども達を探し出した父親は、逃げたことを謝ります。お酒や魚がないと許さないと怒る母親、それを聞いた父親は、必死に泡盛と魚を探し出し母親の機嫌を取ります。父親が持ってきた泡盛と魚で、子どもの誕生祝いを唄や踊りで楽しみます。

『うずらのかあさん』書誌情報）

文：平田 恵美子 絵：佐渡山 政子 監修：遠藤 庄治

発行：合資会社 沖縄時事出版

発行日：1984年4月 2015年第2版2刷発行

定 価：762+税

ISBN978-4-903042-23-7



【自然】

No.15 『フィールドガイド 沖縄の生きものたち』 沖縄生物研究会（新星出版）

『フィールドガイド 沖縄の生きものたち』内容）

海岸から山地の森林まで、沖縄県内のさまざまなフィールドで見られる主な動植物 1000 種をコンパクトなハンディサイズに詰め込んだポケット図鑑です。他書であまり紹介されていない「沖縄のキノコ類」も掲載しています。図鑑部分以外にも、巻頭には「沖縄の自然環境の特性」や、固有な生物が多い理由である。「陸の生物相の成り立ち」などの解説も掲載しました。エコツアーや自然観察会のお共にも最適な、沖縄の自然観察入門書の決定版です。

『フィールドガイド 沖縄の生きものたち』目次）

・ 沖縄の自然環境の特性

・ 植 物

沖縄の植物相と植生の概略／海藻類・海草類／海岸の植物（砂浜）／海岸の植物（岩礁）
／マングローブの植物／湿地・水辺の植物／低地林の植物／リュウキュウマツの林／シイ林の植物／

・ キノコ

キノコの仲間

・ 動物

動物科の概略／哺乳類／鳥の仲間／カメ・トカゲ・ヘビたち／カエル・イモリの仲間／チョウの仲間
／ガの仲間／バッタの仲間／トンボの仲間／セミの仲間／甲虫の仲間／アリの仲間／ハチの仲間／河
川の魚・カニ・エビ／サンゴ礁海岸の魚／海辺の動物たち／林内の小動物たち／家のまわりの動物た
ち

『フィールドガイド 沖縄の生きものたち』

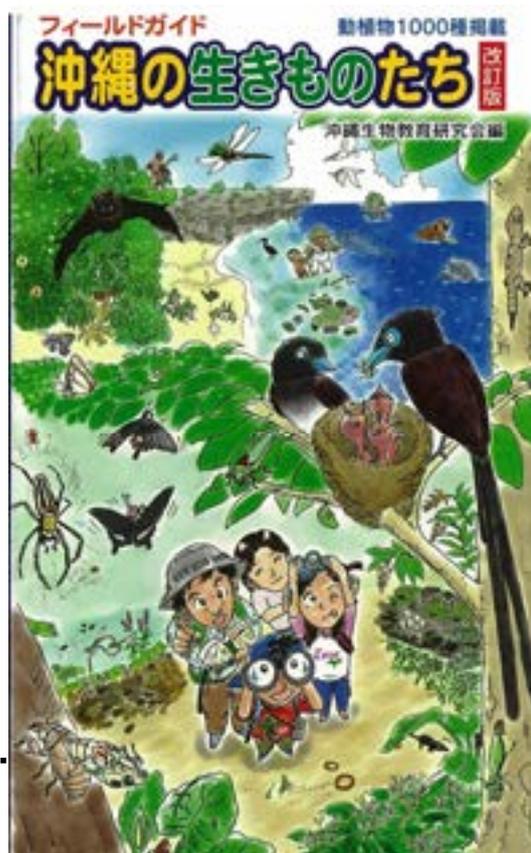
書誌情報）

編 集：沖縄生物教育研究会

発 行：新星出版株式会社

定 価：2,000 円＋税

ISBN978-4-905192-30-5



No.16 琉球弧叢書 29 『サンゴ礁に生きる海人 琉球の海の生態民族学』 秋道智彌 (榕樹書林)

『サンゴ礁に生きる海人 琉球の海の生態民族学』内容)

琉球を特色づける「サンゴ礁」によってつくられた自然は、日本とは異なる人々の生活の営みを生み出してきた。琉球の海とそこに生きる人々の生活は自然とどう向き合っていくのか、という問いとの闘いであり、交流である。

本書ではその実態を克明に記録し、漁撈文化、労働実態、経済から食文化等々の民俗知を明らかにし、琉球の海の未来を展望する。2016 年度伊波普猷賞受賞。

『サンゴ礁に生きる海人 琉球の海の生態民族学』目次)

- 第一章 琉球の海と島嶼世界
- 第二章 海の民俗知と言語的世界
- 第三章 琉球の漁撈（ぎょろう）文化
- 第四章 琉球の海となわぼり
- 第五章 海の経済と食文化
- 第六章 海の境界と生態・民俗
- 第七章 コモンズの海の未来

『サンゴ礁に生きる海人 琉球の海の生態民族学』書誌情報)

著 者：秋道智彌

発 行：榕樹書林

発行日：2016 年 9 月 10 日

定 価：6,400 円＋税

ISBN978-4-89805-182-5



【料理】

No.17 『管理栄養士 伊是名カエの美味しい、簡単 okinawa soup』伊是名カエ (東洋企画)

『okinawa soup』内容)

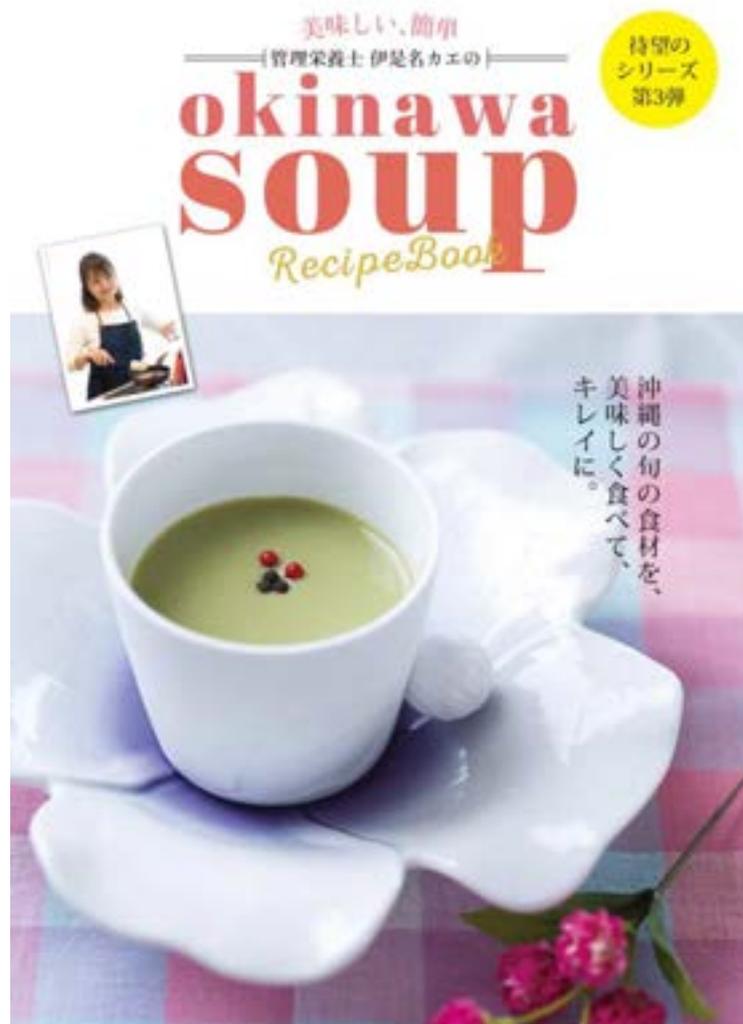
伊是名カエ先生の待望のシリーズ第三弾！

今回は「スープ」レシピ集です。

ポルト編集部が制作を手がけた伊是名カエさんのレシピブックの新刊です。

忙しい毎日の中でもいつもの食材で簡単につくれる、しかも栄養満点！な 31 レシピを紹介。レシピの他にも、島やさいの紹介や伊是名カエさんのインタビュー、料理の基本（切り方、保存、下ごしらえ）などのページも掲載。

1年中使える、完全保存版のスープ本。



『okinawa soup』目次)

伊是名カエ 巻頭インタビュー

スープの隠れた便利食材

料理の基本

沖縄自慢の島やさい

春のスープレシピ

ンスナバーのポタージュ／玄米入り県産人参のスープ／春キャベツと島ラッキョウのポタージュ／フレッシュスイートコーンのポタージュ／ふわっとアーサ汁／パプリカのクリーム仕立て／ムジ汁／豆腐のあったか豆乳スープ

スープの隠れた便利食材

夏のスープレシピ

オクラスープ／冬瓜スープ／中身の吸い物／桃色冷製ポタージュ／エキゾチックオキナワ／スイカとキウイフルーツの冷製スープ／花びらたけのアジアンスープ／

こだわりの食材を求めて- 魚介類編-

秋のスープレシピ

チンヌクポタージュ／島南瓜のポタージュ／ごぼうのスープ／きのこ生姜のぼかぼか豆乳スープ／つるむらさきのクリームスープ／栗と紅芋のスープ／紅芋と島野菜の汁仕立て／カンダバーのポタージュスープ／魚汁

こだわりの食材を求めて- 野菜編-

冬のスープレシピ

冬の島野菜と牛すじの味噌仕立て／ゆし豆腐とにんにく葉のホットスープ／メカジキの粕汁／島人参のカプチーノ仕立て／島野菜ほっこりスープ／イナムドゥチ／白菜と帆立の豆乳スープ

『okinawa soup』書誌情報)

著 者：伊是名カエ

発 行：編集工房 東洋企画

発行日：2016年7月30日

定 価：1,000円＋税

ISBN978-4-905412-57-1 C2077

.....

No.18 『おうちでうちなーごはん』はやかわゆきこ（ボーダーインク）

『おうちでうちなーごはん』内容

太陽をいっぱいにあびて育った島野菜や海の幸をふんだんに使い、自然の恵みに感謝してつくられてきた毎日のごはん。長寿で知られるウチナーンチュ（沖縄の人々）を支えてきたのは沖縄の家庭料理でした。夏・秋・冬・春、季節ごとの食材とレシピを、オールカラーのイラストで紹介します。

『おうちでうちなーごはん』目次

家庭の味—はじめに—

【うちなーごはんの基本】

ゆでた豚三枚肉を常備しよう！

【夏】

ゴーヤー（にがうり）／お弁当に合う“うちなーおかず”／ ナーベラー（へちま）／シブイ（とうがん）／ウンチュー（えんさい）／ネリ（おくら）／豆腐

【秋】

シークワサー（しいくわしゃー）／カンダバー（さつまいもの葉）／シム（さつまいも）／クワンソウ（かんぞう）／シマナー（からしな）／パパヤー（ぱぱいあ）／マーミナー（もやし）／ソーミン・フー／調味料

【冬】

ターンム（田芋）／大根いろいろ利用法／デークニ（大根）、デークニバー（大根葉）／ンスナバー（ふだんそう）／チデークニ（島にんじん）／やちむん

【春】

シマラッキョウ（らっきょう）／ハンダマ（すいぜんじな）／フーチバー（よもぎ）／グンボー（ごぼう）／ンジャナ・ンジャナバー（ほそぼわだん）／チョーミーグサ（ぼたんぼうふう）／イマイユ（鮮魚）／イーチョーバー（ういきょう）／海藻

【コラム】

ウリ類の季節／三つの「見る」／それぞれの一品／ベランダのアタイグー／元気になあれ／朝ジューシーのスヌメ／食べ物を運ぶ時に...“サン”／イリチー七変化／うちなーごはんで行こう！

『おうちでうちなーごはん』書誌情報

絵と文： はやかわゆきこ（ハヤカワユキコ）

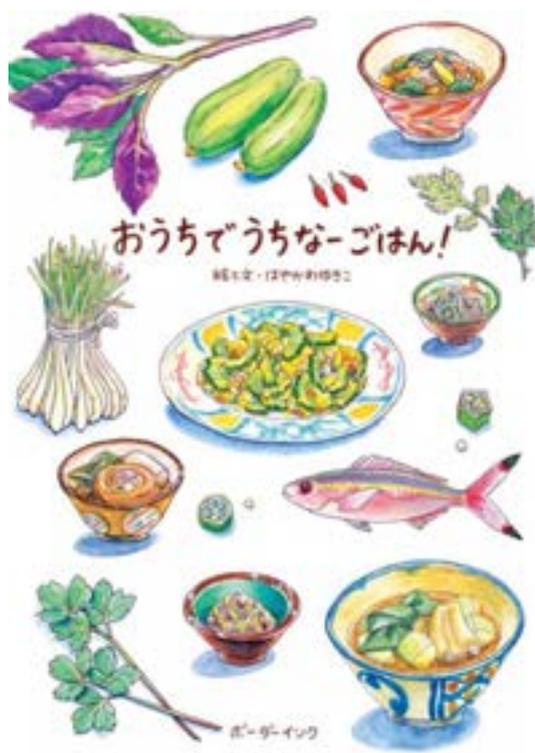
発行：ボーダーインク

発行日：2016年9月初版第一刷発行

2017年5月第二刷発行

定 価：1800円＋税

ISBN978-4-89982-305-6



No.19 『徳元佳代子のやさしいやさい』 徳元佳代子（琉球新報社）

『徳元佳代子の やさしい やさい』内容

人間にとって欠かせないものが食。世の中には、それこそ数多くの食材が売られています。本書は、その食材の中から四季の野菜に焦点をあて、その栽培方法や料理方法までを掲載しています。特にマンションやアパートでも可能なプランター栽培を掲載しているので、育てる場所がないとお悩みの方にもおススメ。野菜ソムリエ上級プロの徳元さんならではの、知識と野菜に対する愛情に満ち溢れた解説文もわかりやすく読めます。さあ、自分で野菜を育てて、収穫し、料理して、家族で食べてみませんか。巻末のやさい栽培カレンダーも初心者には嬉しい情報です。

『徳元佳代子の やさしい やさい』目次

春やさい

ミニトマト／ナス／二十日ネギ／丸オクラ／島トウガラシ／

夏やさい

ゴーヤー／カンダバー／カイワレダイコン／バジル／青じそ／ウンチュー／
スイスチャード／モロヘイヤ／ニガナ／

秋やさい

ラディッシュ／じゃがいも／タマネギ／ミニキャロット／ニンニク／小カブ／
春菊／島ラッキョウ／ホウレンソウ／豆苗／サラダ菜／パセリ／

冬やさい

サンチュ／ルッコラ／枝豆／リーフレタス／イチゴ／水菜／シマナー／ハンダマ／

あとがき

掲載目録

巻末資料（やさい栽培カレンダー）

『徳元佳代子の やさしい やさい』書誌情報

著 者：徳元佳代子

発 行：琉球新報社

発行日：2017年6月1日

定 価：1,600円＋税

ISBN978-4-89742-213-8



No.20 『琉球菓子』安次富順子（沖縄タイムス社）

『琉球菓子』内容)

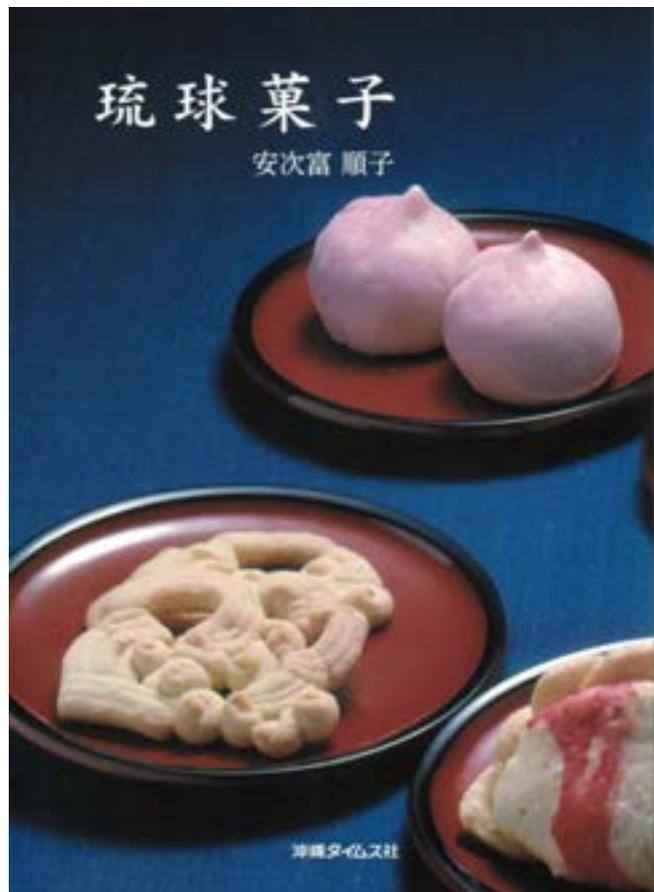
琉球料理の本はあまたあるが、菓子、特に王朝菓子に特化した唯一の書である。文献に名や材料はあるが作り方は記されておらず、現在に伝わっていない菓子について、古老からの聞き取りと日本・中国・南蛮の類似の菓子の研究から再現し、そのレシピと由来などを解説したオールカラー版。単なる紹介にとどまらず、“もてなし”の文化や心まで伝わる内容になっている。

『琉球菓子』目次)

王朝菓子（けさちいな
水山吹
花ぼうる
松風
闘鶏餃
汀砂あん
光餅
チンスコウ
ムーチー
昔の盛り菓子 現在の盛り菓子
冊封使饗応料理と琉球菓子)
庶民のお菓子（サーターアンダーギー／ポーポー／ふちやぎ）
王朝菓子論文2編 ほか

『琉球菓子』書誌情報)

著 者：安次富順子
発 行：沖縄タイムス社
発行日：2017年7月28日初版発行
定 価：2,200+税
ISBN978-4-87127-243-8



【地域】

No.21 『王都首里見て歩き ガイド&マップ』 古都首里探訪会（新星出版）

『王都首里見て歩き』～御城と全19町ガイド&マップ内容）

琉球の王都・首里には、豊かな湧水がもたらす平和で静寂な佇まいがあった。城の東方（首里三箇）では泡盛、北方と西方は琉球和紙、南方は豆腐とモヤシが作られた。史跡や拝所を訪ね歩く人の姿は今なお絶えないが、古参の住人にもそれらの在処や由来はあまり知られていない。本書は2006年に首里公民館で開かれた市民講座「首里古都再発見」の修了生による古都首里探訪会が、150回もの踏査に基づいて史跡やスージグラー（路地）の解説、現在の地図を収録した充実の1冊。

『王都首里見て歩き』～御城と全19町ガイド&マップ目次）

○首里城（24箇所）／○首里赤田町（18箇所）／○首里赤平町（17箇所）／○首里池端町（8箇所）／○首里石嶺町（12箇所）／○首里大名町（18箇所）／○首里大中町（13箇所）／○首里金城町（22箇所）／○首里儀保町（18箇所）／○首里久場川町（15箇所）／○首里崎山町（18箇所）／○首里寒川町（15箇所）／○首里末吉町（18箇所）／○首里平良町（21箇所）／○首里汀良町（22箇所）／○首里当蔵町（21箇所）／○首里桃原町（8箇所）／○首里鳥堀町（19箇所）／○首里真和志町（15箇所）／○首里山川町（20箇所）

『王都首里見て歩き』～御城と全19町ガイド&マップ書誌情報）

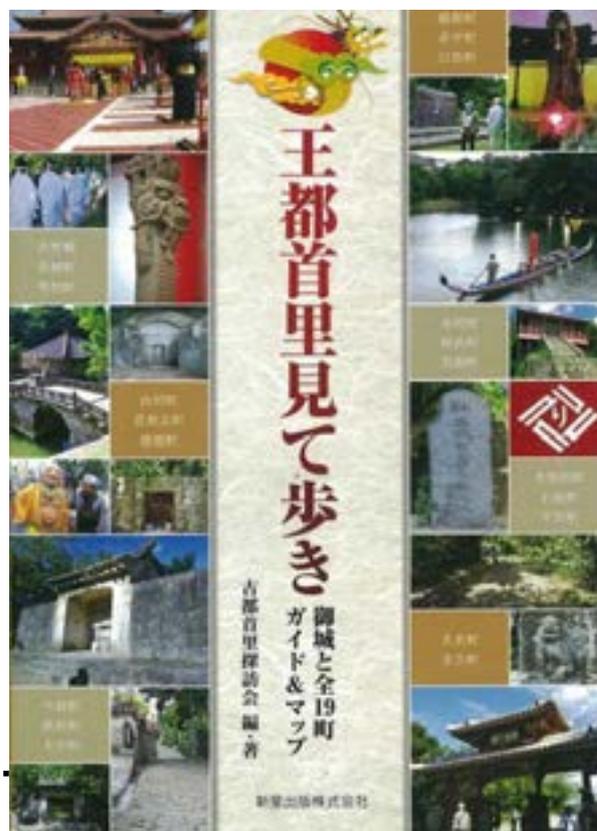
編 著：古都首里探訪会

発 行：新星出版株式会社

発行日：2016年3月31日 2016年6月第2刷発行

定 価：1,500円＋税

ISBN978-4-905192-78-7



No.22 『ぼくの〈那覇まち〉放浪記 追憶と妄想のまち歩き・自転車散歩』新城和博
(ボーダーインク)

『ぼくの〈那覇まち〉放浪記 追憶と妄想のまち歩き・自転車散歩』内容)

変化する街、失われた町、それが〈那覇まち〉。沖縄・那覇生まれ育ちの著者が、復帰後の那覇、戦前の那覇の風景、痕跡をもとめて、ひとりほろほろと歩いて綴った待望の〈まち歩き〉エッセイ。

琉球王朝時代からの歴史ある港町、沖縄一の市場を抱えた那覇は、戦争で消滅した。アメリカ統治下、復帰後と復興・発展した那覇は、懐かしくて新しい姿をしている。〈那覇まち〉の戦前の古い地図と復帰後の記憶を片手に、ご近所のすーじ小(路地)の角を曲がって、まち歩き・自転車散歩(ポタリング)したら、切なくも新しい風景が見えてくる。硬軟織り交ぜた沖縄を語るエッセイ。〈那覇まち〉の風景写真多数収録。まち歩き、沖縄・那覇の旅のウラガイドとしても最適。

『ぼくの〈那覇まち〉放浪記 追憶と妄想のまち歩き・自転車散歩』目次)

まえがき 〈那覇まち〉を、ほろほろと放浪する

すーじ小の角を曲がって 2007～2009

那覇の町を後ろ向きに漕いで渡る 2011～2014

あとがき

『ぼくの〈那覇まち〉放浪記 追憶と妄想のまち歩き・自転車散歩』書誌情報

著 者：新城和博

発 行：ボーダーインク

発行日：2015年5月25日発行

定 価：1,600円+税

ISBN978-4-89982-278-3



追憶と妄想のまち歩き・自転車散歩
ぼくの〈那覇まち〉
放浪記 新城和博



No.23 『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』松田良孝（南山舎）

『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』内容)

太平洋戦争末期の1944年7月、日本政府は緊急閣議で南西諸島の奄美大島、徳之島、沖縄本島、宮古、石垣の5島の老幼婦女子の台湾疎開を決定した。本書はこのうちの無縁故疎開について、石垣から台湾の中南部に疎開した3人を中心に、出発から疎開先への入居、食事や病気、二次疎開から食糧難にあえぐ様子、敗戦を迎えて台湾人に囲まれた恐怖や助けられた話、そして引き揚げ港の南方澳から島に帰還するまでの足取りを克明に追うことで、台湾疎開の実態を明らかにした初の著作である。敗戦直前には、幼い兄妹が食を求めてさまよう姿が胸を打つ。台湾政府はこうした疎開者を「琉球難民」と呼んでいた。離島の戦争を語る貴重な一書である。

『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』目次)

第1部 疎開

序章／第1章「出発」／第2章 疎開地にて一新営／第3章 茶の里—龍潭／第4章 2次疎開／第5章 終戦／第6章 栄丸事件／第7章 引き揚げ／終章

第2部 疎開地を訪ねてみる

佳里／新営／南投／南方澳／麻豆／龍潭

第3部 疎開者帰還船の運航と台湾沖縄同郷会連合会

『台湾疎開「琉球難民」の1年1か月』書誌情報)

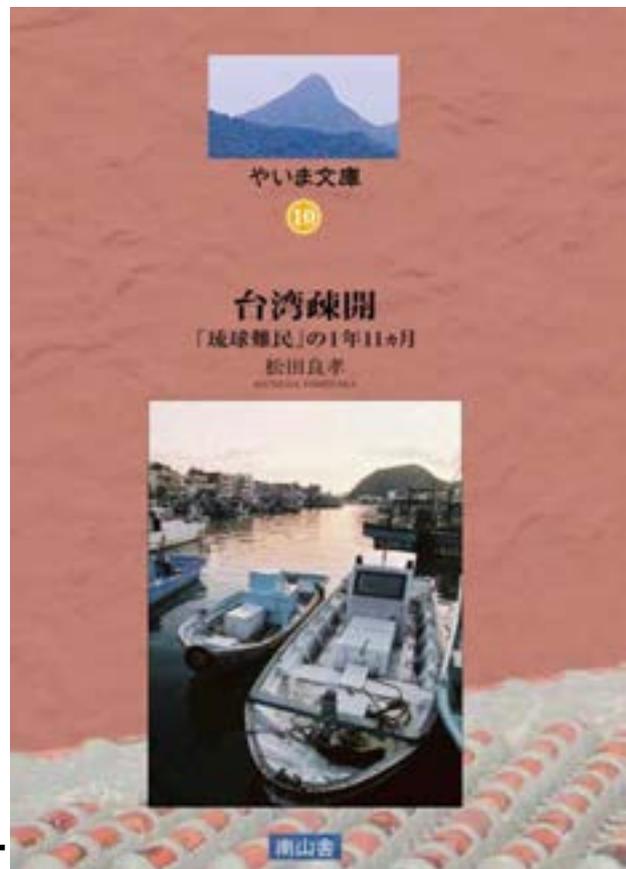
著者：松田良孝

発行：南山舎

発行：2010年6月1日

定価：2,300円＋税

ISBN978-4-901427-20-3



No.24 『石垣島で台湾を歩く』国永美智子・松田良孝・野入直美（沖縄タイムス社）

『石垣島で台湾を歩く』内容）

石垣島から台湾まで 236 ㎞、与那国島からなら 111 ㎞。パイナップル産業や土地公祭など、石垣島に残る台湾文化の痕跡を訪ね歩き、両地域に長い交流があることを知ることができる『台湾』をテーマにした石垣島の歩き方」や、「八重山に生きる台湾系移民」「植民地台湾へ渡った沖縄の人びと」などの証言、さらに資料などでつづったユニークな石垣島ガイドブック。本書を手に取り歩いていくと、より理解が深まるよう構成されている。オールカラー版。

『石垣島で台湾を歩く』目次）

「台湾」をテーマにした石垣島の歩き方
八重山のことをあまり知らないあなたへ
八重山に生きる台湾系住民
植民地台湾へ渡った沖縄の人びと
人々をつなぐ海、分かち海
マップ&クイズ こんなに近い！石垣島と台湾

『石垣島で台湾を歩く』書誌情報）

編 著：国永美智子・野入直美・松田ヒロ子・松田良孝・水田憲志
発 行：沖縄タイムス社
発行日：2012年3月3日初版発行
定 価：1,500円
ISBN978-4-87127-203-2



No.25 『沖縄・国際通り物語』大濱聡（ゆい出版）

『沖縄・国際通り物語』内容）

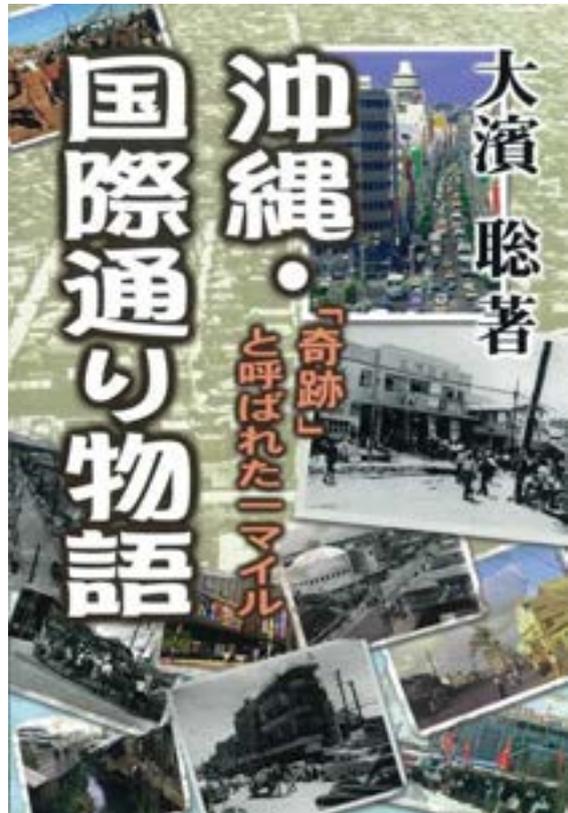
「奇跡の1マイル」と呼ばれた国際通り。昔は、畑の中の一本道だった。沖縄戦で那覇は灰燼に帰し、かつての市街地は米軍に占領された。この一本道は那覇復興の中心になり、いつしか国際通りと呼ばれるようになった。通りに出来た映画館「アーニー・パイル国際劇場」が通りの名の由来である。更に闇市から始まった市場の通りは「平和通り」と名付けられ、これまた映画館「平和館」に因む。

1950年代、都市計画がなされ、現在見られる街並みが形成された。街の出来上がる過程をダイナミックに描いたのが本書である。時代は移り変わり、映画館は姿を消し、デパートも今はない。通りは、沖縄を訪れた観光客で溢れ、土産品店の客引きの声と民謡が聞こえる。

街は、生き物。沖縄の戦後史と重なる町の歴史を読み取って欲しい。

『沖縄・国際通り物語 「奇跡」と呼ばれた1マイル』目次）

- 1 那覇・戦後の始まり
- 2 野中の一本道だった国際通り
- 3 人々に娯楽を一戦後初の映画館建設
- 4 国際通りのルーツ
アーニー・パイル国際劇場
- 5 国際通りに開業した店
- 6 密貿易・ウチナーンチュの
したたかさとエネルギー
- 7 「国際通り」誕生
- 8 そして「奇跡の一マイル」と呼ばれた
- 9 国際通りをめざせ！ デパート戦争
- 10 さらば国際通り
- 11 国際通り十間道路拡幅計画
- 12 拡幅工事始まる
- 13 ニュー牧志街道開通
- 14 名実ともに那覇市の国際通り



『沖縄・国際通り物語 「奇跡」と呼ばれた1マイル』書誌情報）

著 者：大濱 聡

発 行：ゆい出版

発行日：1998年1月20日

定 価：1,800円＋税

ISBN4-946539-01-8

.....

【空手】

No.26 『上地流空手道～写真と解説で見る上地流の形～』 島袋幸信（東洋企画）

『上地流空手道～写真と解説で見る上地流の形～』内容)

上地流の八つの形を、分解写真と日英両表記で解説。

三戦から三十六まで、上地流の八つの形すべての分解写真を、日本語・英語両表記のキャプションでわかりやすく解説。著者の島袋幸信氏はフランス在住で、上地流空手道協会ヨーロッパ支部の代表。ヨーロッパにおける上地流普及の立役者でもある。すでにフランスではフランス語版の形の解説書を出版しているが、各方面からの要望により、このたび日英両表記での解説書を出すことに。

上地流の歴史についての簡単な説明もあり、上地流の入門書としてはもちろん、沖縄伝統空手上級者の参考にもなる一冊。

『上地流空手道～写真と解説で見る上地流の形～』目次 Contents)

はじめに Forward 2

上地流空手道略史 A Short History of Uechi-Ryu Karate-Do 5

三戦 SANCHIN 9

完子和 KANSHIWA 17

完周 KANSHU 27

十戦 SEICHIN 39

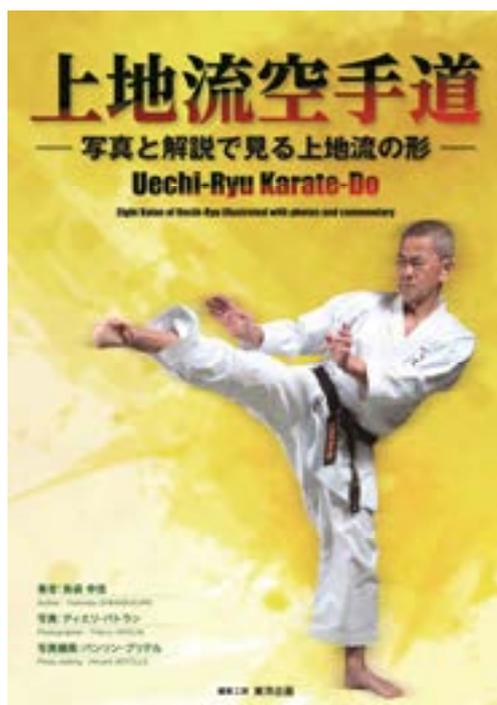
十三 SEISAN 53

十六 SEIRYU 69

完戦 KANCHIN 81

三十六 SANSEIRYU 95

終わりに Post Script 108



『上地流空手道～写真と解説で見る上地流の形～』書誌情報)

著 者：島袋幸信

発 行：編集工房 東洋企画

発行日：2017年7月1日

定 価：1,500円＋税

ISBN978-4-905412-74-8 C3375

.....

【文学】

No.27 『バッドデイ』 黒ひょう（沖縄タイムス社）

『バッドデイ』内容）

2017 年で 43 回を数える新沖縄文学賞。沖縄から本格的な小説の書き手の発掘を目的に創設され、又吉栄喜、目取真俊の芥川賞作家を輩出したことでも知られている。この新沖縄文学賞受賞作を単行本化していくシリーズ〈タイムス文芸叢書〉の中の一冊で、近年の受賞作の中でも評価の高い作品が本書である。27 歳の主人公が、奇妙な出会いをした「オジー」に頼まれるまま老人ホームにいる女性に会いに行く。彼女が発した「戦争」という言葉から見たものとは一。70 年前と現在が交差する展開を、クールでテンポある文体でつづった沖縄文学の新たな傑作。著者の力量をまざまざと見せつける「魂り場（たまりば）」という異色作も収録している。

『バッドデイ』書誌情報）

著 者：黒ひょう

発 行：沖縄タイムス社

発行日： 2016 年 1 月 19 日初版発

定 価：本体 700 円行

ISBN978-4-87127-230-8



.....

No.28 『しょうたとがじまる』野原なをみ（フォレスト）

『しょうたとがじまる』内容)

春から夏、そして秋、冬へと移り変わる四季とともに成長していく「しょうた」と、きじむな一のキムとの交流の姿を描く児童文学書。

「しょうた」は、今年からまき幼稚園の年長組。「しょうた」はある春の日。大好きなブランコに乗るため、朝早くに登園します。一番乗りの「しょうた」は、ゆらーりゆらーり、ふわーんふわーんとブランコを漕ぎます。そんな「しょうた」の耳元で、「おーい、しょうた」と呼ぶ声。それが「しょうた」と可愛い妖怪「きじむな一のキム」との出会いでした。幼い「しょうた」と「キム」の友情や交流を通して、「しょうた」は少年への階段を上っていきます。

『しょうたとがじまる ーまき幼稚園の四季ー』目次)

まきようちえん

春

しょうたとがじまる

春のえんそく

きじむな一とあそぶ

夏

やんばるシーサー

よるのたんけんたい

秋

しょうたと花さき山

ウォークラリー

しょうた、やんばるへ

エイサーだいすき

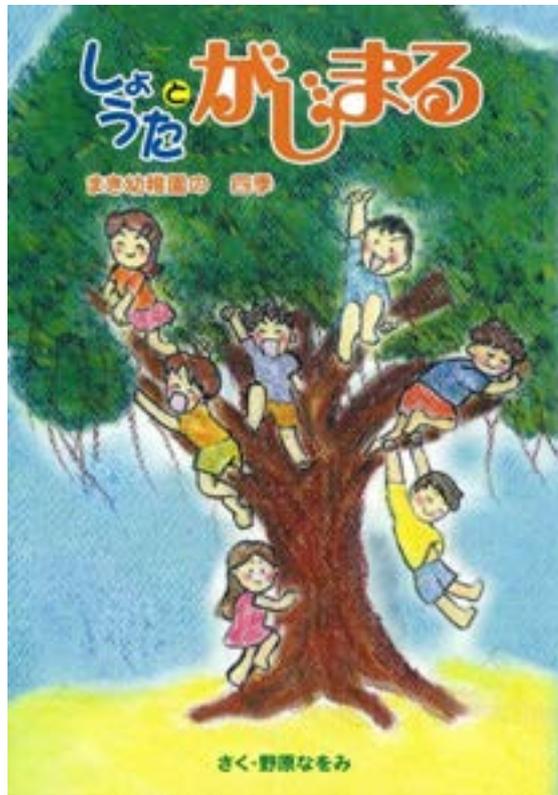
冬

ねずみのぼうけん

しょうたとゆきだるま

しょうた二人

そつえん



『しょうたとがじまる ーまき幼稚園の四季ー』書誌情報

著 者：野原なをみ

発 行：有限会社フォレスト

発行日：2008年3月31日

定 価：1,200円＋税

ISBN978-4-9903112-3-0

.....

No.29 『アメリカのある風景』仲程昌徳（ニライ社）

『アメリカのある風景』内容)

ペリー来航に関する小説4編（大正・昭和初期・米軍統治下時代・施政権返還後にそれぞれ発表されたもの）を、時代の変革に伴って変化する内容を描くことから始め、沖縄戦後のアメリカと沖縄の関係、米兵と沖縄人たちとの関係性、小説の中から読み解いていく。

そこからは、沖縄の作家たちが丹念に描くアメリカ人の姿や、それに向き合う沖縄人の姿がある。1945年以降発表された多くの小説の中で、アメリカ人やアメリカ兵がどのように取り入れられてきたかを丹念に読み解き、それぞれのピースをつなぎ合わせて、沖縄が持つ、もう一つの風景をあぶりだして見せる書である。

『アメリカのある風景－沖縄文学の一領域－』目次)

1. 「アメリカ」を読む

憧憬と忠義と暴力と

－ペリー来航と沖縄の作家－

「挿話」を読みかえる

－「二世」小論－

平和工作から親善活動へ

－戦後沖縄とアメリカ－異文化接触の始動

オキナワ・アメリカ・ヤマト

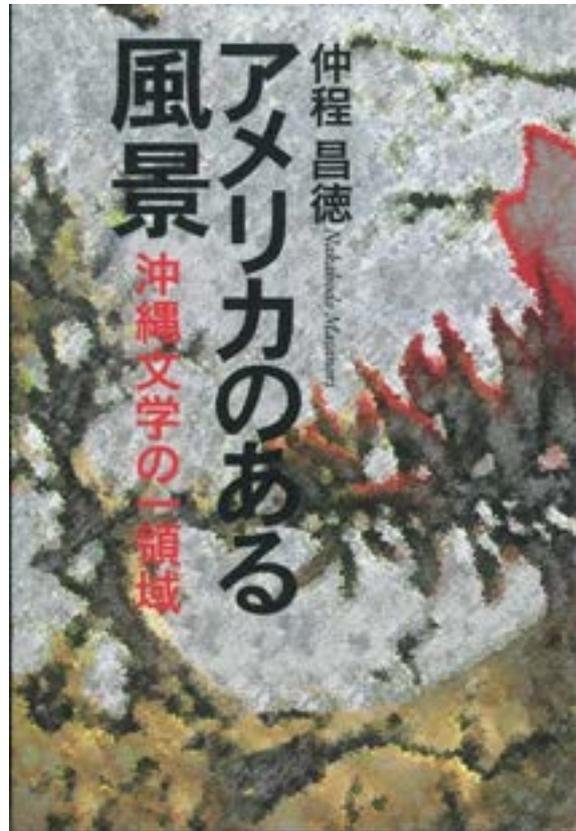
－琉球新報短編小説集・佳作20年－

復帰後の文学

2. 「アメリカ」を見る

「アメリカ」のある風景

－戦後小説を歩く－



『アメリカのある風景－沖縄文学の一領域－』書誌情報)

著 者：仲程昌徳

発 行：ニライ社

発行日：2008年9月20日

定 価：1,800円＋税

ISBN978-4-931314-68-9

.....

【写真集】

No.30 『来夏世一祈りの島々 八重山一』 大森一也（南山舎）

『来夏世一祈りの島々 八重山一』内容）

八重山の島々には、豊年祭や種取祭、節祭、結願祭などさまざまな伝統祭祀行事がある。過疎化が進む離島の小さな島でも、人がそこに生活している限り絶えることがない。祭祀空間の中心をなす御嶽では司と呼ばれる司祭者による神との交信が行なわれ、あるいは神を招く海上の神事が繰り返されてきた。著者は人と神とのつながりに引き込まれて、祭祀空間へと通い始める。しかし、「人と神とのつながりは特殊な聖地、特定の司祭者だけのものではなく、八重山に暮らす誰しものが祖先から大切に受け継いできた暮らしと共にある『祈り』の光にこそあるのではないか」と気づく。本書の作品にはいずれも敬虔な祈りがあり「静かな光」に満ちあふれている。

『来夏世一祈りの島々 八重山一』目次）

- ・世を運ぶ舟／・世は稔れ 種は割れよ／・若夏になれば／・来夏世へ願いを込めて
 - ・月の真昼に／・白夏の過ぎるころ／・祈りの歳月
- （写真作品点数 計 160）
- ・「世ば稔れ」考 沖縄県立芸術大学 波照間永吉教授による論考
 - ・撮影メモ／・あとがき／・八重山諸島位置図

『来夏世一祈りの島々 八重山一』書誌情報）

著 者：大森一也
発 行：南山舎
発行日：2014年8月1日
定 価：2,900円＋税
ISBN978-4-901427-31-9

